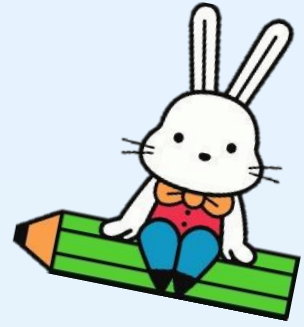


～転入された皆様へ～

①

正しく知って、 放射線 と 福島市



知ってもらいたい

・ 放射線の5つのポイントと大切なこと ・

1. 放射線はふだんから身の回りにあり、ゼロにはできません。また、放射線はうつりません。
2. 福島市内の放射線量は、事故後年月の経過とともに次第に低下し、平均値は事故当時と比べ、約9割減少しています。
3. 放射線の健康への影響は、被ばくした量が問題となります。線量が極めて低い場合は、日常生活上の様々な他の要因による影響と比べて低くなります。
4. 現在の福島市の放射線レベルでは、健康に影響が出るとは考えられていません。
5. 福島県では、生産段階・流通段階・消費段階において放射性物質の検査を行い、安全性が確認された食品のみを出荷しています。

放射線に関するQ&A
～よくある質問から～

②

③

福島市と世界の放射線量

⑥

原発事故当時の福島市

④

食と水の安全と健康管理

⑦

放射線・放射能・放射性物質とは

⑤

放射線に関する各種相談窓口

⑧

令和4年3月作成

放射線に関するQ&A ～よくある質問から～

②

Q1

福島に引っ越してきて、放射線量が気になります。事故後まだ放射線量が高いのでしょうか？身の回りに放射線があると思うと心配です。

関連ページ ④・⑤・⑥

A1

令和2年11月から令和3年1月まで福島市内923ヶ所で行った放射線量測定の結果、環境放射線量測定値の平均は0.15マイクロシーベルト/時でした。平成23年6月の平均1.33マイクロシーベルト/時と比べると、9割程度減りました。これまでのデータによれば、福島市の1時間当たりの測定値は明らかな健康への影響を与える数値ではなく、日本国内や他の国の主要都市とほぼ同じ値まで減ってきています。また、原発事故で空気中に放出された放射性物質は、雨や雪によって地上に降り、その場で放射線を出しているため、空気中にはありません。このことは、モニタリングポストの数値が時間によって大きく変わらないことから読み取ることができます。(空気は動くため、空気中に放射性物質がある場合、数値が大きく変わります。)

Q2

今回の原発事故による放射線の健康影響はあるのでしょうか？

関連ページ ⑤・⑥

A2

これまでの外部被ばく線量や内部被ばく検査の結果などからは、今回の原発事故による追加放射線による「発がん」や「がんによる死亡」などの健康への影響は、世界の多くの研究者の知見やこれまでの疫学調査などにに基づき、少ないと考えられています。これは、食事・喫煙・飲酒・運動不足・大気汚染・職場環境・ウイルス・細菌・個人の体質、習慣など、様々な他の発がん要因による影響が大きく、低線量被ばくのリスクを確認できないということです。しかし、今回の原発事故はたいへん重大な事故でしたので、その健康リスクについては丁寧な調査を行うようにしています。

Q3

子どもを外で遊ばせても問題ないのでしょうか？

関連ページ ⑥

A3

現在の福島市の放射線量を考えると、外で一日中遊んでも、心配されるほどの被ばくを受ける状況ではありません。たとえ除染していない土に触っても、よく手を洗うことで放射性物質は洗い流されます。屋外で転んでけがをしたとしても、水で傷口をきれいに洗い流せば問題ありません。また、雨に濡れても、現在の雨中に原発事故由来の放射性物質は検出されていないため、心配する必要はありません。子どもにとって、適度な運動は非常に大切であり、遊べないことがストレスにもなります。バランスの取れた生活をするように心がけましょう。

Q4 学校で提供されている給食は大丈夫なのでしょうか？

関連ページ ⑦

A4

福島市では、学校給食が安全な食材で作られていることを再度確認し、安心して子どもたちに給食を食べてもらうようにするため、放射能測定器を各学校給食センター及び各単独給食実施校に設置し、給食一食全体及び食材ごとの放射性物質の検査(学校給食まるごと検査)を毎日、給食提供前に実施しています。
そして、測定器の検出限界値(セシウム134、137ともに1ベクレル/kg)未満であることを確認したうえで提供しています。

Q5

福島市の飲料水は安全なのでしょうか？

関連ページ ⑦

A5

水はすべての人が飲み、また代わりがないため、基準値が特に厳しく設定されています。飲料水の放射性物質の検査は、福島市内4ヶ所の上水道で行っています。検査の結果、全ての検査場所でセシウム134、137ともに「検出せず」となっています。また、福島市の水道水をボトリングしたペットボトル水『ふくしまの水』は、国際的な評価コンテスト「モンドセレクション」において、2015年から7年連続で金賞以上を受賞しており、味とともに安全性が認められています。
安心してお飲みください。

Q6

食べ物で気を付けたほうが良いことはありますか？

関連ページ ⑦

A6

スーパーなどに売られている食品については検査が行われ、食品の基準値を超えた場合には国や自治体に報告することになっているため、市販されている食品は問題ありません。
令和2年度の福島市の流通外食品の放射能測定結果をみると、基準値を超えた食品はきのこ類が全体の51%、こしあぶらなどの山菜類が43%、栗などの木の実が4%、イノシンなどの肉・魚が1%、その他1%となっています。
山で採取した山菜類、きのこ類、木の実などの食品は、基準値を超える場合があります。放射線モニタリングセンターをはじめ、支所・学習センターなど11か所で食品中の放射能測定を実施していますので、測定して安全を確認したうえでお召し上がりください。

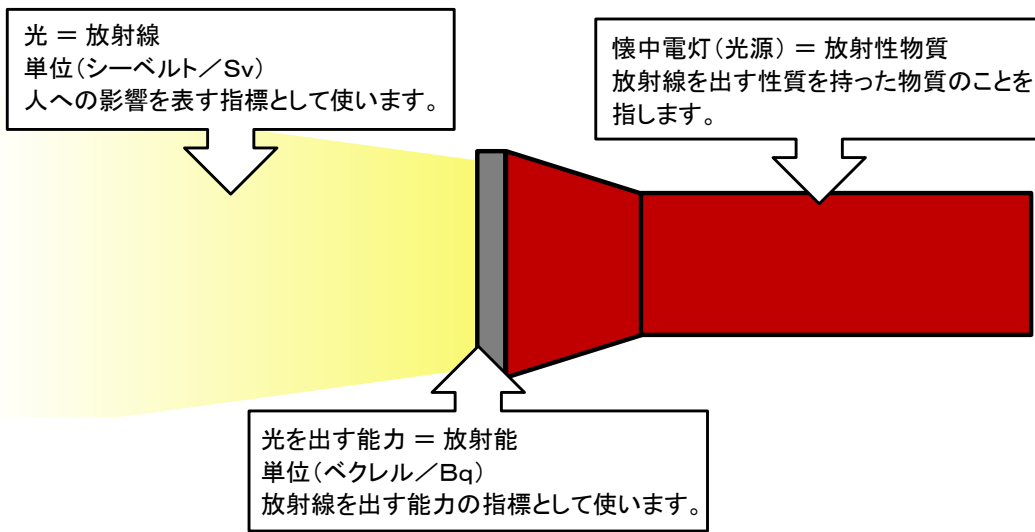
放射線・放射能・放射性物質とは

放射線について

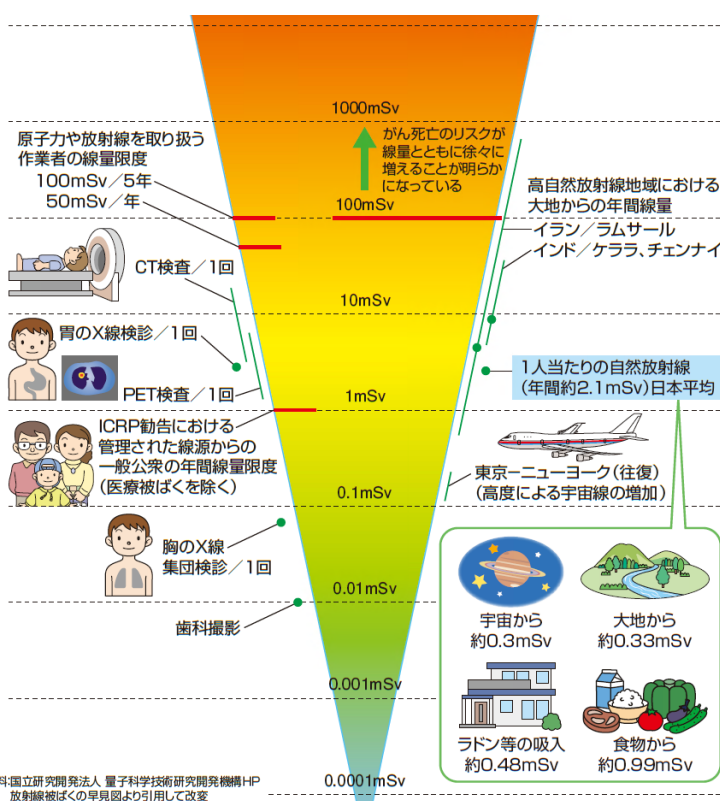
放射線とは、人の目には見えない小さな「粒子」や「電磁波」のことを言います。これらは物質を通り抜ける性質があり、体を通り抜けるときに細胞を傷つけることがあります(被ばく)。ほとんどの場合、細胞は自ら傷を修復することができますが、一度に大量に被ばくすると多くの細胞が傷つけられてしまい、修復できなかった細胞から「がん」などの病気になることがあります。放射線は原発事故以前から自然界に存在しており、「有り・無し」ではなく「量」が最も重要です。

放射能・放射性物質と単位

懐中電灯に置き換えて考えると、以下のような関係性になります。



身のまわりの放射線



私たちの周りには、常に放射線があります。日本では1年間で約2.1ミリシーベルト(mSv)の放射線を自然界から受けています。宇宙や地表、食物などの自然界から受ける放射線のことを「自然放射線」と言います。

また、原発事故により増えた放射線のことを「追加放射線」と言い、国では追加放射線による被ばく線量(自然放射線や医療機関での被ばくを除く)年間1ミリシーベルト未満を長期目標としています。

医療での検査や治療でも放射線を受けますが、がんのリスクが増加するなどの影響が出るのは、100ミリシーベルトを超える多量の被ばくであることが明らかになっています。

参考資料:国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構HP
放射線被ばくの早見図より引用して改変

福島市と世界の放射線量

福島市とその他の地域の放射線量

環境放射能測定値



出典: 福島県「復興・再生のあゆみ(第6版)」

この図では、日本と世界の主要都市の空間線量率の測定結果を示しています。

これらの都市の放射線量はおよそ0.04~0.14マイクロシーベルト(μSv)となっており、放射線量は地域によって異なります。

これは、主に大地の土壌や岩石の違い(ウランやカリウムを含む花崗岩など)により、大地からの放射線量が異なるからです。

福島市内の放射線量は原発事故後上昇しましたが、時間経過とともに次第に低下しています。

個人積算線量の測定(外部被ばく検査)

希望者を対象に、「ガラスバッジ」、「Dシャトル」といった個人線量計の貸し出しを行っています。

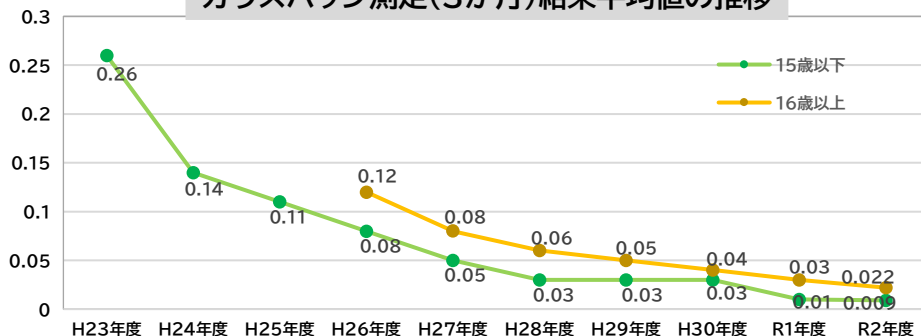
ガラスバッジ



ガラスバッジは一定の期間(福島市は3か月)身につけることで、その期間中の外部被ばくの積算線量を知ることができます。

Dシャトルは1時間毎の個人外部被ばく線量を知ることができます。

ガラスバッジ測定(3か月)結果平均値の推移



これまでの測定結果について、福島市健康管理検討委員会より、『3か月で測定された線量より推定した年間積算線量からは、「将来、放射線によるがんの増加などの可能性は少ない」と判断されます。』との評価を受けています。

学校給食まるごと検査事業

学校給食センター・単独給食実施校において、毎日の給食提供前に放射性物質のスクリーニング測定を実施しています。

福島市のホームページで、測定した試料の結果をご覧いただけます。

《お問い合わせ》 教育施設管理課 学校給食係 ☎ 024-525-3706

水道水の放射性物質測定

検出限界値を1ベクレル(Bq)/kgとして、毎週1回の検査を実施しています。

放射性物質の測定は、『福島県飲料水の放射性物質モニタリング検査実施計画』に基づいて県により実施されており、平成23年4月6日から現在まで、検出限界値未満(ND)となっています。

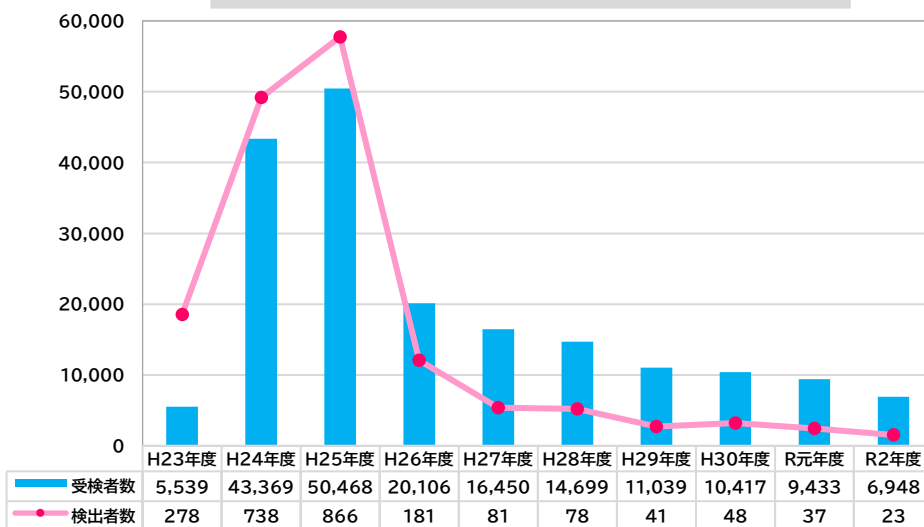
《お問い合わせ》 施設管理センター 施設係 ☎ 024-522-2233

ホールボディカウンタ(WBC)による内部被ばく検査

ホールボディカウンタ(WBC)による内部被ばく検査は、日常摂取している食事などによる放射性セシウムの体内への取り込み状況を確認するために実施しています。

これまでの検査の実施状況と、検出限界値を超えた数値が測定されたかたの数は、以下のとおりとなっています。

内部被ばく検査(WBC)受検者と検出者の推移



これまで実施してきた結果、
預託実効線量は全員1ミリシーベルト未満であり、福島市健康管理検討委員会では『健康に影響を与えるような数値ではない』との見解を示しています。

※預託実効線量とは、成人では50年間、子どもでは70歳までに体内から受けられると思われる内部被ばく線量のことです。

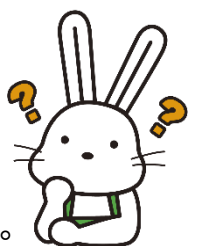
放射線に関する講座・講演会

放射線についての正しい知識を持つことで健康不安が軽減され、健康づくりについての意識を高められるとともに、誤った情報に惑わされず自らの考えを持てるようになることを目的としています。

『放射線と子どもの健康講演会』・・・幼稚園、こども園、小学校の園児児童の保護者及び中学校、高等学校、支援学校の生徒と保護者を対象に講師を派遣し、講演を行います。

『放射線と市民の健康講座』・・・市民の方々を対象に、放射線の基本から健康影響について講座を行います。講演後には質疑応答や、希望されるかたの個別相談などもお受けしています。

『出前講座』・・・「放射線と健康」をテーマに、企業や団体、町内会、サークルなどへの出前講座を開催しています。内容やご要望に応じ、医師や市職員などが分かりやすく説明します。



放射線に関する各種相談窓口



お気軽にお問い合わせ、ご相談ください！



福島市

相談内容	担当部署など	受付時間	電話	備考(所在地など)
外部被ばく検査(ガラスパッジ)に関すること	保健所保健総務課 放射線健康管理係	平日(祝日を除く) 午前8時30分～午後5時15分	024-525-7681	福島市森合町10番1号 福島市保健福祉センター内
内部被ばく検査(ホールボディカウンタ)に関すること				
子どもの健康相談	こども家庭課 母子保健係	024-525-7671		
健康づくりに関する相談	保健所健康推進課 地域保健第一・第二係	024-525-7674		
屋外や屋内の放射線測定に関すること	環境課 放射線モニタリングセンター	平日(祝日を除く) 午前9時～午後5時	024-525-3210	福島市桜木町8番13号 (旧福島市児童文化センター)
食品放射線測定に関すること				
除染全般に関すること	環境再生推進室 除染総務係	平日(祝日を除く) 午前8時30分～午後5時15分	024-535-1136	福島市花園町1番36号
農産物の放射性物質の自主検査に関すること	農業振興課 生産振興係		024-525-7720	
学校給食まると検査事業に関すること	教育委員会教育施設管理課 学校給食係		024-525-3706	福島市五老内町3番1号 福島市役所内
公園の放射線のモニタリングに関すること	公園緑地課 管理係		024-525-3765	
水道水の放射性物質測定に関すること	水道局施設管理センター 施設係		024-522-2233	福島市小倉寺字赤坂12番地

福島県

相談内容	担当部署など	受付時間	電話	所在地
甲状腺検査に関すること	放射線医学 県民健康管理センター	平日(祝日を除く) 午前9時～午後5時	024-549-5130	福島市光が丘1番地 福島県立医科大学内
県民健康調査に関すること				
赤ちゃんの健康や育児母乳についての相談	ふくしまの赤ちゃん 電話健康相談	平日(祝日を除く) 午前9時30分～午後5時15分	フリーダイヤル 0120-80-2051	福島県ホームページに記載 福島県助産師会
こころの健康相談	ふくしま心のケアセンター	平日(祝日を除く) 午前9時～12時 午後1時～5時	被災者相談ダイヤル "ふくこライン" 0120-783-295	

国や専門機関など

相談内容	担当部署など	受付時間	電話	所在地
放射線に関する電話相談	福島県民向け電話相談	平日 午前8時30分～午後6時15分 土日祝日 午前8時30分～12時	フリーダイヤル 0120-988-359	
原子力災害全般に関すること	原子力規制庁コールセンター	平日(祝日を除く) 午前8時30分～午後6時15分	03-5114-2190	